令和４年度　沖田中学校便り

学校だより

学力特集号
令和４年11月11日
北九州市立 沖田 中学校
校　長　鶴田　豊

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、理科）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

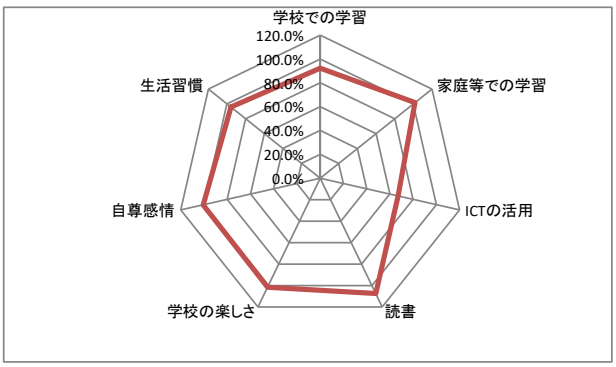
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	概ね平均的な数値であるが、「読むこと」などの思考力にかかわる分野において数値が下回っていた。特に、言葉の使い方に関する内容について苦手傾向にある。	下回っている
数学	「数と式」の分野の正答率は高くなっていたが、全体的にやや下回っている傾向にある。特に「データの活用」「図計」の分野の正答率が低かった。特に、計算や証明などの問題に対して苦手な傾向にある。	下回っている
理科	知識・技能に関する内容に関しての正答率はやや上回る傾向にあるが、「生命」を柱とする領域の図や表から考察する問題に対して苦手な傾向がある。日常生活の中の自然事象を図やグラフで思考・判断することは苦手な傾向にある。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・学校で学習した内容を、さらに深め次の学習につなげようとする意欲的な傾向はある。しかし、自分の考えを上手くまとめて発表することが苦手な傾向があるため、全国平均をやや下回る結果となっている。 ・家庭等での学習時間は増加傾向にある。また、読書に興味を示す生徒が多い。しかし、読書できる時間がなかなか確保されていないので次への課題としたい。 ・自己肯定感が高く、学校へ来ることを楽しいと答える生徒は多い傾向にある。 ・ICTを活用した授業の確立は今後の課題である。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

・表現する力を育成することにより、人とのコミュニケーションを円滑にはかる機会が増える。そのためにも、基礎学力の定着と学ぶ楽しさを味わえる授業展開を目指していく。

②　家庭生活習慣等に関する取組

・朝食をとって登校する生徒が増えるように、日々の生活習慣のリズムの重要性を訴え、生活の見直しのできる生徒の育成を目指す。